

# ボウ硝含有ガラス融液からの SO<sub>2</sub> ガスの発生動力学

京都工芸繊維大学工芸学部物質工学科  
大田陸夫・若杉 隆

SO<sub>2</sub> Gas Bubble Forming Kinetics in Na<sub>2</sub>SO<sub>4</sub>-containing Glass Melt

Rikuo Ota and Takashi Wakasugi

Dept of Chemistry & Materials Technology  
Kyoto Institute of Technology

## Abstract

Kinetics was studied on gas bubble formation of SO<sub>2</sub> molecules dissolved in Na<sub>2</sub>SO<sub>4</sub> containing glass melt, number density and size of gas bubbles existing in the melt were calculated. Equations for the rate of bubble formation and bubble growth were derived. Decisively important role of solid surface on gas formation and growth was pointed out.

## 1. はじめに

ボウ硝 (Na<sub>2</sub>SO<sub>4</sub>) はガラス溶解の清澄剤として使用される。清澄が終了したと思われるガラス融液からリボイルによって気泡が発生することが知られている。本論ではボウ硝を含有するガラス融液からSO<sub>2</sub>ガスが発生するメカニズムを仮定し、ガスの発生と成長に関する速度論を考察することとした。

ガラス融液中ではボウ硝 (Na<sub>2</sub>SO<sub>4</sub>) は以下の3態で存在すると推定できる。

- (a) 溶解イオン状態 : 2Na<sup>+</sup> + SO<sub>4</sub><sup>2-</sup> または 2Na<sup>+</sup> + SO<sub>3</sub><sup>2-</sup>
  - (b) 溶解单分子の状態 : Na<sub>2</sub>O (非架橋酸素と結合) + (SO<sub>3</sub>) または Na<sub>2</sub>O + (SO<sub>2</sub>)
  - (c) 気泡 : SO<sub>2</sub> または SO<sub>2</sub>ガス
- SO<sub>3</sub><sup>2-</sup>イオンと SO<sub>2</sub>分子の濃度比は未定であるが、SO<sub>2</sub>分子のみに注目する。Fig. 1は融液中のSO<sub>2</sub>分子（化学ポテンシャル  $\mu^L$ ）および平衡分圧にあるSO<sub>2</sub>分子（化学ポテンシャル  $\mu^v = \mu^L$ ）および融液中に存在するnSO<sub>2</sub>気泡（化学ポテンシャル  $\mu_n = \mu^L + \Delta\mu_n$ ）の平衡関係を示す。

2. ガラス融液が蒸気と平衡であるとき  
nSO<sub>2</sub>気泡の数およびサイズの分布

2. 1 SO<sub>2</sub>分子からnSO<sub>2</sub>気泡への変化に伴う  
化学ポテンシャルの変化  $\Delta\mu_n$  および  
自由エネルギー変化  $\Delta G_n$

圧力 P の気体の化学ポテンシャルは

$$\mu = \mu_n (latm) + kTlnP \quad (2.1)$$

外圧 = 10<sup>5</sup> J/m<sup>2</sup> (1気圧) で平衡分圧 P<sub>0</sub> をもつ SO<sub>2</sub> 気体を内圧 P のガラス融液中に入れたときの化学ポテンシャルの変化  $\Delta\mu$  は

$$\Delta\mu = kTln P/P_0 \quad (2.2)$$

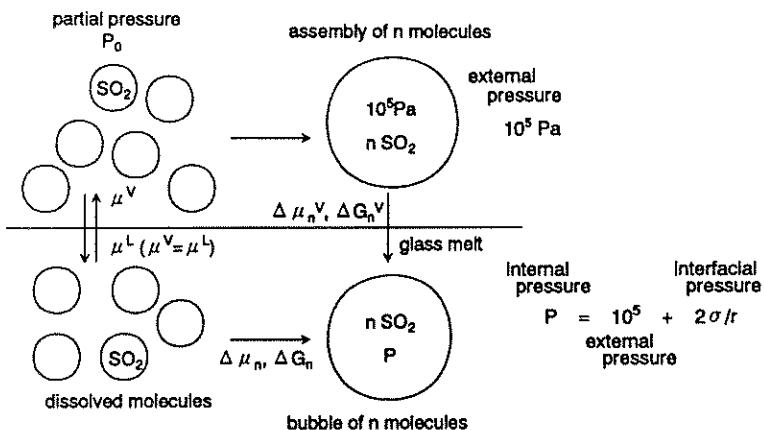


Fig. 1 Equilibrium relationship between  $\text{SO}_2$  molecules in air/melt and  $n\text{SO}_2$  gas bubbles in the melt.

ただし、 $P = 10^5 + 2 \sigma / r$ 、 $\sigma$ は融液と  $\text{SO}_2$ 蒸気の界面エネルギー、 $r$ は気泡の半径。 $\Delta \mu_n$ には界面エネルギー  $4 \pi r_n^{-2} \sigma$  が加わる。 $r_n$  は  $n$  分子気泡の半径。

$$\Delta \mu_n = kT \ln (10^5 + 2 \sigma / r_n) / P_0 + 4 \pi r_n^{-2} \sigma / n \quad (2.3)$$

$\Delta G_n = n \Delta \mu$  として

$$\Delta G_n = nkT \ln (10^5 + 2 \sigma / r_n) / P_0 + 4 \pi r_n^{-2} \sigma \quad (2.4)$$

$n$  と  $r_n$  の関係を気体の状態方程式から求め る。

理想気体方程式

$$(10^5 + 2 \sigma / r_n) 4 \pi r_n^{-3} / 3 = nkT, \\ n : \text{分子数} \quad (2.5)$$

界面張力による圧力が 1 気圧に等しくなる気泡半径は  $\sigma = 0.20 \text{ J/m}^2$ 、 $T = 1000 \text{ K}$ 、 $2 \sigma / r_n = 10^6$  から  $r = 4 \mu \text{m}$ 、 $n = 3.8 \times 10^{18}$  が得られる。

$r \leq 4 \mu \text{m}$  の場合  $10^5 + 2 \sigma / r = 2 \sigma / r$  と近似できる。

$r$  と  $n$  の関係は  $r = (3nkT / 8\pi\sigma)^{1/2}$  または  $n = 8\pi\sigma r^3 / 3kT$   $(2.6)$

$$\Delta \mu_n = kT \ln (32\pi\sigma^3 / 3nkT)^{1/2} / P_0 + 3kT / 2 \quad (2.7)$$

$$\Delta G_n = nkT \ln (32\pi\sigma^3 / 3nkT)^{1/2} / P_0 + 3nkT / 2 \quad (2.8)$$

$r \geq 4 \mu \text{m}$  の場合  $10^5 + 2 \sigma / r = 10^5$  と近似できる。

$$r = 10^{-2} (15nkT / 2\pi)^{1/2} \text{ または } n = 10^5 (4\pi r^3 / 3kT) \quad (2.9)$$

$$\Delta \mu_n = kT \ln (10^5 / P_0) + 10^{-4} \times 2 \times (450\pi)^{1/3} (kT)^{2/3} \sigma / n^{1/3} \quad (2.10)$$

$$\Delta G_n = nkT \ln (10^5 / P_0) + 10^{-4} \times 2 \times (450\pi)^{1/3} (nkT)^{2/3} \sigma \quad (2.11)$$

Table 1 に  $P_0 = 10^3 \text{ J/m}^3$  (0.01 atm) の場合の  $\text{SO}_2$  分子数  $n = 1 \sim 10^{18}$  の範囲の気泡の  $r_n$ 、 $2 \sigma / r$ 、 $\Delta \mu_n$  および  $\Delta G_n$  を示す。ただし、 $\sigma = 0.2 \text{ J/m}^2$ 、 $T = 1000 \text{ K}$ 。Fig. 2 に  $n$  と  $\Delta \mu_n$  および  $\Delta G_n$  の関係を示す。

バルク融液中の  $n\text{SO}_2$  気泡の分布は  $n\text{SO}_2$  気泡の数がボルツマンの分布則に従うとすると

$$N_n = N_0 \exp(-\Delta G_n / kT) \quad (2.12)$$

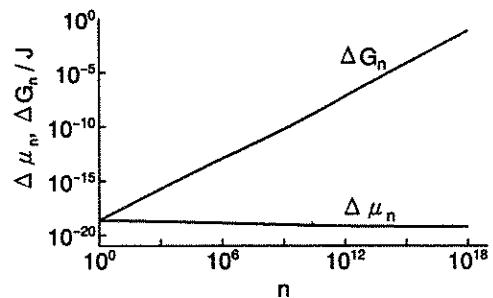


Fig. 2 Relationship between  $n$  and  $\Delta \mu_n$  or  $\Delta G_n$

Table 1 Gas bubble radius r, interfacial pressure  $2\sigma/r$ , chemical potential  $\Delta\mu_n$ , free energy  $\Delta G_n$  and number density of  $nSO_2$  bubbles  $N_n$  and  $N'_n$  as a function of n.

n	r/m	$2\sigma/r$ (atm)	$\Delta\mu_n/J$	$\Delta G_n/J$	$N_n/m^3$	$N'_n/100m^3$
1	$9.08 \times 10^{-11}$	$4.41 \times 10^4$	$2.32 \times 10^{-19}$	$2.32 \times 10^{-19}$	$1.01 \times 10^{10}$	$1.01 \times 10^{21}$
3	$1.57 \times 10^{-10}$	$2.55 \times 10^4$	$2.39 \times 10^{-19}$	$7.18 \times 10^{-19}$	$5.00 \times 10^3$	$5.00 \times 10^5$
5	$2.03 \times 10^{-10}$	$1.97 \times 10^4$	$2.44 \times 10^{-19}$	$1.22 \times 10^{-18}$	$1.19 \times 10^{-12}$	$1.19 \times 10^{-10}$
10	$2.87 \times 10^{-10}$	$1.39 \times 10^4$	$2.16 \times 10^{-19}$	$2.16 \times 10^{-18}$		
$10^2$	$9.08 \times 10^{-10}$	$4.41 \times 10^3$	$2.00 \times 10^{-19}$	$2.00 \times 10^{-17}$		
$10^4$	$9.08 \times 10^{-9}$	$4.41 \times 10^2$	$1.68 \times 10^{-19}$	$1.68 \times 10^{-15}$		
$10^6$	$9.08 \times 10^{-8}$	$4.41 \times 10^1$	$1.36 \times 10^{-19}$	$1.36 \times 10^{-13}$		
$4 \times 10^9$	$4.00 \times 10^{-6}$	1.00	$8.43 \times 10^{-20}$	$1.63 \times 10^{-10}$		
$10^{12}$	$3.22 \times 10^{-5}$	$1.24 \times 10^{-1}$	$6.57 \times 10^{-20}$	$6.57 \times 10^{-9}$		
$10^{15}$	$3.22 \times 10^{-4}$	$1.24 \times 10^{-2}$	$6.38 \times 10^{-20}$	$6.38 \times 10^{-5}$		
$10^{18}$	$3.21 \times 10^{-3}$	$1.25 \times 10^{-3}$	$6.36 \times 10^{-20}$	$6.36 \times 10^{-2}$		

ここで、 $N_0$  :  $SO_2$ 分子の濃度、 $N_n$  :  $nSO_2$  気泡の濃度 ( $m^3$ 当り)。

Table 1 に  $n = 1 \sim 5$  の  $nSO_2$  気泡の濃度  $N_n$  ( $m^3$ 当たり) と  $N_n^*$  (100  $m^3$ 当たり) を示す。平衡では実用窯のバルクガラス中でも 5 分子以上気泡 (直径20Å以上) は存在しないことがわかる。

## 2. 2 器壁における気泡の発生

Fig. 3 は個体表面に生成した気泡と内部圧を示す。(a)はバルク中に生成した気泡 (圧力  $P_1$ )、(b)は平らな固体表面に生成した泡 (圧力  $P_2$ )、

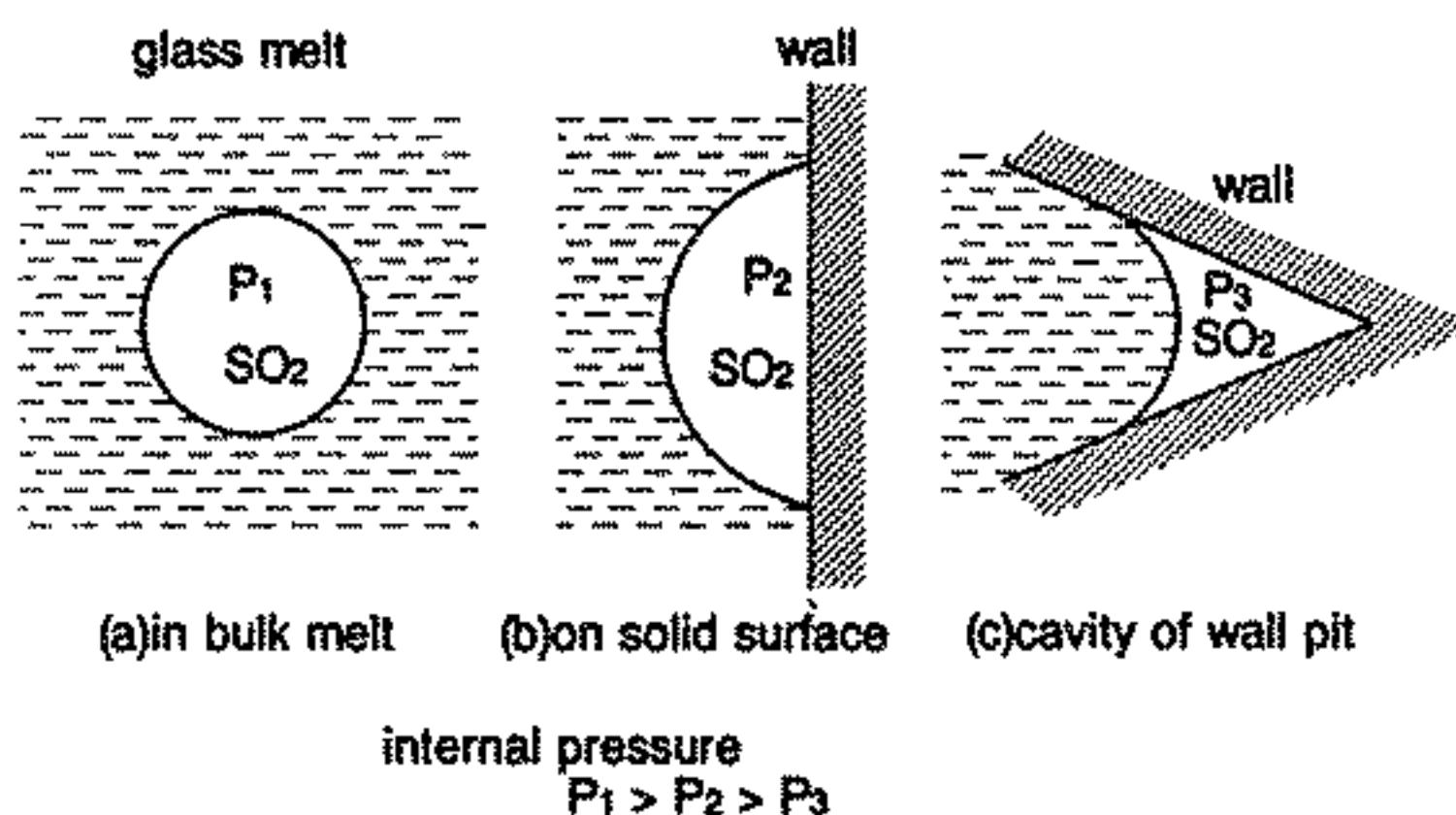


Fig. 3 Gas bubble formation at the solid surface. (a)gas bubble in the bulk liquid with internal pressure  $P_1$ , (b)gas bubble at the flat solid surface with internal pressure  $P_2$ , (c)gas bubble at a cavity of solid surface with internal pressure  $P_3$ .  $P_1 > P_2 > P_3$ .

(c)は固体表面のくぼみに生成した泡 (圧力  $P_3$ ) を示す。固体表面に生成した泡はバルク融液中の球状の泡に比べて圧力が低いはずである。従って、器壁では  $\Delta G_n$  が低くなり、泡は発生しやすい。器壁の  $\Delta G_n$  の低下の程度は器壁のくぼみの形状に依存する。

## 3. 平衡条件がくずれたときの泡の発生と成長の動力学

3. 1 蒸気分圧  $P_0$  は変化しないで、外圧  $P_{ext} = 10^5$  (atm) が変化する場合。例えば外圧  $P_{ext} = 10^5$  (atm) が 0.9 atm に低下した場合、 $\Delta G_n$  は低下し、 $N_n$  の分布が変化する。このとき単分子泡が発生し成長するとともに、すでに存在する泡が成長する。

3. 2 外圧 ( $P_{ext}$ ) が変化しないが蒸気分圧  $P_0$  が変化する場合。例えば、蒸気分圧が  $P_0 \rightarrow P_0'$  に下がると  $\Delta G_n(P_0) \rightarrow \Delta G_n(P_0')$  に一致する方向に脱泡反応が進む (Fig. 4)。

3. 3 分圧  $P_0 =$  一定で融液の温度が変化する場合。例えば、温度が  $T \rightarrow T'$  に上昇すると  $SO_2$  の活動が上昇するので、分圧が  $P_0 \rightarrow P_0'$  に上昇する。 $P_0 =$  一定にとどまるためには、 $\Delta G_n(T) = \Delta G_n(T')$  に一致する

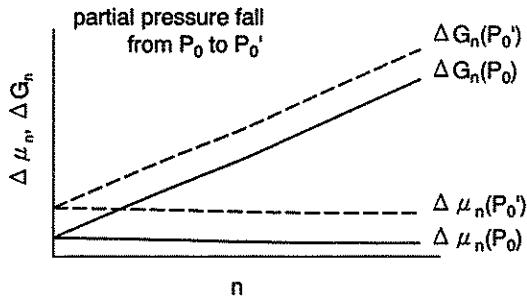


Fig. 4 Change of  $\Delta\mu_n$  and  $\Delta G_n$  when partial pressure  $P_0$  is lowered to  $P_0'$  (dotted line) while external pressure  $P_{ext} = 1 \text{ atm}$  remains the same as before.

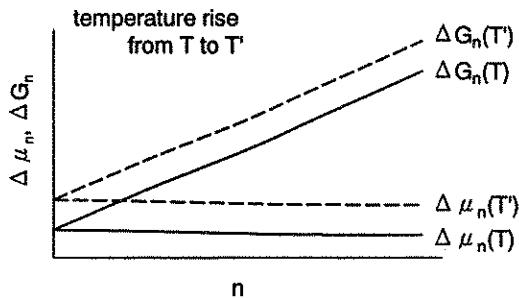


Fig. 5 Change of  $\Delta\mu_n$  and  $\Delta G_n$  when temperature  $T$  is raised to  $T'$  (dotted line) while partial pressure  $P_0$  remains the same as before.

ように脱泡反応が進む (Fig. 5)。

3. 4 融液中に温度分布が生じた場合は2. 3に準じる。平衡温度の融液中に高温域が生じたとき、高温融液中の $\Delta G_n$ が高くなり、泡が発生する。融液の組成または $\text{SO}_2$ 濃度（活動度）に分布が生じた場合は2. 2に準ずる。 $\text{SO}_2$ 濃度（活動度）が平衡値より高いならばこの部分から融液から気泡が発生する。

#### 4. 気泡の成長速度

気泡の成長メカニズムには(a)気泡に1分子ずつ吸収されて成長する（分子吸収型と呼ぶ）、(b)気泡同志が合体することで成長する（気泡合

併型と呼ぶ）が考えられる。

(a)分子吸収型の場合。単分子は界面のエネルギー障壁 ( $\Delta H_v$ ) および  $n \rightarrow n+1$  に伴う  $\Delta G_n$  の上昇分  $\Delta G_n' = dG_n/dn$  を越えて  $n$  分子気泡に吸収され、 $n+1$  分子気泡が生成する。 $n\text{SO}_2$  気泡に接している  $\text{SO}_2$  分子が  $n\text{SO}_2$  気泡に飛び込む頻度  $\nu$  は界面エネルギー障壁の高さを  $\Delta H_v$  ( $\text{SO}_2$  分子の蒸発熱) とすると、

$$\nu = \nu_0 \exp \left\{ - (\Delta H_v + \Delta G_n') / kT \right\} \quad (4.1)$$

$\text{SO}_2$  分子のジャンプ速度  $\nu_0$  は  $D$  を拡散係数として  $\nu_0 = 6D/d^2$  (4.2)

$\eta$  を粘度として Einstain-stokes の式から

$$D = kT / 3\pi d \eta \quad (4.3)$$

$r \leq 4 \mu \text{m}$  のとき

$$\begin{aligned} \Delta G_n' &= kT \ln \left( 32\pi \sigma^3 / 3nkT \right)^{1/3} / P_0 \\ &+ kT \end{aligned} \quad (4.4)$$

$r \geq 4 \mu \text{m}$  のとき

$$\begin{aligned} \Delta G_n &= kT \ln 10^5 / P_0 + 10^{-4} \times 4 \\ &(50\pi / 3n)^{1/3} \sigma (kT)^{2/3} \end{aligned} \quad (4.5)$$

$n\text{SO}_2$  気泡が単分子を吸い込む速度  $dn/dt$  は  $dn/dt = 4\pi r^2 dN_0 \nu_0 \exp \left\{ - (\Delta H_v + \Delta G_n') / kT \right\}$

$$= (8r^2 N_0 kT / d^2 \eta) \exp \left\{ - (\Delta H_v + \Delta G_n') / kT \right\} \quad (4.6)$$

$n\text{SO}_2$  気泡の半径方向の成長速度は

$$U = dr/dt = (dr/dn)(dn/dt) \quad (4.7)$$

$r \leq 4 \mu \text{m}$  のとき

$$U = \left\{ 2 \times 10^{-5} N_0 (kT)^2 / \pi d^2 \eta \right\} \exp \left\{ - (\Delta H_v + \Delta G_n') / kT \right\} \quad (4.8)$$

$r \leq 4 \mu \text{m}$  のとき

$$\begin{aligned} U &= (3/2\pi\sigma)^{3/2} (kT)^{5/2} (N_0 n^{1/2} / 2d^2 \eta) \\ &\exp \left\{ - (\Delta H_v + \Delta G_n') / kT \right\} \end{aligned} \quad (4.9)$$

Fig. 6 にはバルク中の  $n = 1 \sim 10^{18}$  の気泡の成長速度を示した。 $\text{SO}_2$  濃度  $N_0 = 3 \times 10^{26} / \text{m}^3$ 、 $d = 10 \times 10^{-10} \text{ m}$ 、 $\sigma = 0.2 \text{ J/m}^2$ 、 $\eta = 10 \text{ J/Pas}$ 、 $\Delta H_v = 24.7 \text{ kJ/mol}$ 、 $T = 1000 \text{ K}$  として計算した。 $n$  の増大とともに  $U$  は一定の値に近づくことがわかる。

（以下18頁下段へ続く）

(15頁からの続き)

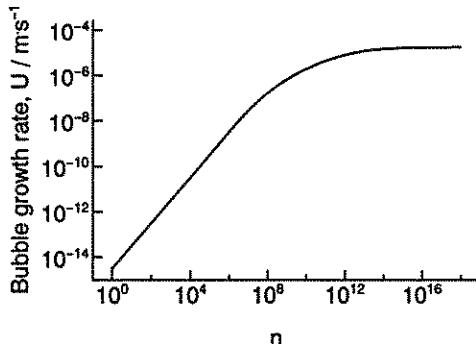


Fig. 6 Growth rate of  $\text{SO}_2$  gas bubble at 1000K as a function of  $n$ .

器壁や固体表面でできた気泡が成長する場合。 $\Delta G_n$  および  $\Delta G'_n$  も小さくなり成長速度  $U$  も大きくなるはずである。 $\Delta G'_n$  がどの程度低下するか器壁のくぼみの形状による。

## 5. 気泡成長速度

観察方法の分解能によって  $(n + 1)$  分子気泡が観察できるとすると  $(n + 1)$  分子気泡が

生成する速度  $I_n = N_n (dn/dt)_n$  が気泡生成速度といえる。

### 5. 1 バルク融液中で気泡が生成する場合

(4.6) を適用して

$r \leq 4 \mu\text{m}$  のとき

$$I_n = 3(kT)^2 N_0 N_{n+1} / (\pi d^2 \sigma \eta) \exp\{-(\Delta H_v)/kT\} \quad (5.1)$$

$r \geq 4 \mu\text{m}$  のとき

$$I_n = 8 \times 10^{-4} (kT)^{5/3} N_0 (15n/2\pi)^{2/3} N_{n+1} / (d^2 \eta) \exp(-\Delta H_v/kT) \quad (5.2)$$

### 5. 2 器壁で泡が生成する場合

器壁の深いくぼみでは  $r < 0$  となるならば界面圧は  $P = 2\sigma/r < 0$  となるので、 $\Delta G_n$  はバルクの場合に比べると小さくなる。例えば、 $\Delta G_1 < 0$  の場合には、器壁のくぼみは  $\text{SO}_2$  気泡の吸着サイトとなり、すべて  $\text{SO}_2$  気泡で吸着されることになる。 $\Delta G_n < 0$  の場合には、多分子泡の生成速度もバルクの多分子泡の生成速度に比べて格段に大きくなる。